

## O-077

## 院内ケースメソッド教育による高度経営人材育成の試み

服部行紀  
JCHO 中京病院

近年、病院の外部環境は、医療の高度化、生産年齢人口の減少による人手不足、患者像の変化、厳しい財政状況を反映した医療費抑制政策、働き方改革による早急な生産性向上の必要性などの複合的な要因により、中長期的な構造的「冬の時代」に突入している。しかしこの現実には直視されず、医療機関一般で医療職の教育は学会を中心とした「医療知識/技術教育」偏重のままであり、病院運営、チーム運営、会議運営などの「マネジメント教育」は軽視されていたのが現状であった。21世紀の医療機関の発展にはこれらのマネジメントスキルの補充が決定的であると見え、独自に院内教育プログラムを開始することとした。対象は組織/技術教育」偏重のままであり、病院運営、チーム運営、会議運営などの「マネジメント教育」は軽視されていたのが現状であった。21世紀の医療機関の発展にはこれらのマネジメントスキルの補充が決定的であると見え、独自に院内教育プログラムを開始することとした。対象は組織の中核となる30-40代のミドルマネージャー約30人、場所は夜間の看護学校教室、手法はケースメソッドを採用した。ケースメソッドは「ケース」と呼ばれる実際の企業経営活動の要約をもとに生徒同士の対話により授業を構成する、ビジネススクールでの経営学修士の養成に用いられることが多い手法である。知識の伝達という点では講義形式にやや分があるが、思考力や全体把握力の養成に優れることが知られ、現場の運営効率向上への効果が高いと考え採用した。「ケース」としては種々の有名病院や企業のケース教材を使用し、経営上の成功要因Key success factorの分析、チーム運営上の工夫を議論し、またあまりなじみのない経営理論も用い解釈を行った。開始して間もないため経営上の数字に反映されているとは言い難いが、受講生の効果の実感が高い。他病院にも早期に紹介すべきと考えたため、実際の様子を交えてここに報告する。

## O-078

## 臨床教育のツールとしてクリニカルパールを用いるメリット

海透優太  
JCHO 若狭高浜病院 整形外科/臨床研修センター長

【背景】当院には初期研修医が地域研修枠で月替りで研修に訪れている。毎日の振り返りで行っているクリニカルパール作成が知識の一般化として生涯学習に適していると考えたため報告する。

【方法】毎日の初期研修医との振り返りの中で、SEAを用いた振り返りの他に、クリニカルパール作成を行っている。当日診療から得られた情報の中で、「明日からの高浜町の診療にすぐ使えそうだったもの」を、短い文章に言い換えてみんなに提供する、という簡単なルールしか制定していない。ただし、「・・・かもしれない」など、曖昧な語尾で終わることを避けるように指導している。

（一例）「痙攣見たら、Vi除外！その後、3低（低血糖・低酸素・低血圧）！」「小腸閉塞にガストログラフィン！レントゲンは24時間後！」「圧迫骨折疑いは胸腰椎2方向！破裂骨折はCTで後壁破綻を見る！」など。

【考察】クリニカルパールは「短く単刀直入な臨床上のアドバイス」と表現されることも多い。患者から得られた情報を他の患者に対して一般化することであり、簡潔で覚えやすくインパクトのある言葉で作成されることを特徴の一つとしている。優れた臨床家が提唱した珠玉のパールからネット上に落ちていた都市伝説のようなものまで数多くのパールが存在する中で自身の臨床を豊かにするツールとなるかを判断する必要がある。自己にてパール作成を行うことにより、情報源を評価しエビデンスと照らし合わせたり、自分のいる環境での実践性や対象とする集団に転用することの妥当性を考慮させている。「明日からの高浜町の診療に」と制限していることも、実現可能かを想像させることに一役買っていると考えている。また、逆に一般化されたものを情報源・安全性・信憑性を考慮し目の前の患者に適切することは、自立性を持って診療を展開する基盤となっていると感じている。

## O-079

## 東京大学眼科学講座と連携したJCHO東京新宿メディカルセンター眼科における女性医師活躍支援プロジェクト報告

坪田 謙井 裕喜子  
JCHO東京新宿メディカルセンター 眼科

【目的】日本の医師数に占める女性割合は増加傾向だがその年齢別労働力率は一般の職種と同様のM字カーブを描き出産・育児に伴い35歳頃に低下する。近年医師総数は増加しているが眼科医は減少し、そのなかでは開業医と女性医師の割合が高く勤務医の減少傾向が強い。東京大学眼科学講座では女性眼科医がより活躍できる環境構築をめざし2018年から女性医師活躍支援プロジェクトを立ち上げ、その中心的施設として当院も参画している。当講座における調査結果や取り組みから、女性医師が勤務医としてキャリアを形成する上での障害や支援すべき点を明らかにしたい。

【方法】平成15-30年度に東大眼科に入局した医師の勤務状況を調査し、女性医師50名を対象に得られたアンケート結果を解析した。JCHO東京新宿メディカルセンターの産休復帰後の医師1名をキャリア形成支援のモデルとした。

【結果】入局後10年目までの退局率に男女差はなかったが、15年目まででは女性77%、男性58%と女性の退局者が増加していた。入局時に本人が想定していた将来の希望勤務形態は95%の女性医師が大学・関連病院の常勤と回答したが、現在希望どおりの形で勤務しているのは73%であった。その25%が病院での勤務環境に何らかの障害を感じており、近い将来勤務医としてのキャリアが継続困難になる可能性が示唆された。当院の眼科医師1名に対し、勤務医としての臨床・研究・教育にわたる短期・長期の目標を設定して定期的にフィードバックを行うキャリア形成支援のモデルを試行した。

【結論】結婚や出産をきっかけに働き方が変化し、病院の常勤医としてのキャリアを断念せざるを得ない女性医師が少なくない。病院として地域医療を持続的に支援するためには高度な診療能力をもつ勤務医とその教育体制が必須であり、女性医師が活躍できる環境を整えるため大学の医局や関連病院が必要な役割を果たすことが求められる。

## O-080

## 新専門医制度での麻酔科専門医育成におけるJCHO病院間連携の役割

村島浩二  
JCHO九州病院 麻酔科

【はじめに】JCHO九州病院は北九州市にある575床の基幹病院で、34診療科で新生児から高齢者まで診療を行っている。麻酔科医の育成には、幅広い年齢層の患者と幅広い症例が望ましく、他のJCHO病院や大学病院から麻酔科研修を受け入れた実績がある。

【新専門医制度】2019年4月の新専門医制度の施行に伴い麻酔科専門医取得に必要な基準が厳格化された。受験資格として、脳神経外科・胸部外科手術・心臓血管手術・小児（6歳未満）の麻酔がそれぞれ25症例、帝王切開術の麻酔10症例の経験が必須となった。この結果、脳神経外科・胸部外科・心臓血管外科、産科、小児外科を持たない病院のみでは麻酔科専門医は育成出来なくなる。近年の少子高齢化と低出生率から小児科・産科を標榜する病院は限られる。

【当院での人材育成】当院の2018年度の診療実績は、総手術数7980、脳神経外科手術71、胸部外科手術121、心臓血管手術286、小児手術（6歳未満）280、帝王切開術156であった。以前より、大学医局からのローテイト後期研修医を年間数名受け入れてきた。また、今回の麻酔科専門医取得に必要な特定診療科の症例も1年間の研修でも経験可能で、今後とも人材育成には力を入れていきたい。

【当院の人材確保の現状と今後】当院の麻酔科人員は、就職医師5名と各大学医局からのローテイト後期研修医（半年から2年間）5名の10名であった。しかし、大学の後期研修医不足を背景に、ローテイト医師派遣の大幅減から、今年度より麻酔科医師数が6名まで減少し、人材確保に苦慮している。各大学医局からの派遣医師数は各年度の大学入局者の影響を受けるため、JCHO病院間の連携による人材確保も重要と思われる。今後はJCHO病院間の連携をより密にし、より多くの麻酔科専門医を受け入れ育成を行い、お互いのJCHO病院の人材育成と診療維持を目指していきたい。

**O-081**

## 札幌北辰病院総合診療科の3年間の経過

若林崇雄

JCHO札幌北辰病院 総合診療科

【はじめに】札幌北辰病院で総合診療科が本格稼働して3年が経過した。現在の様子を含め総合診療科の院内での役割を検討したい。

【方法】2014年度からの研修医（自前、たすき）、病院実習数、病院見学数、救急車搬入台数、総合診療科入院数を調査した。またここ数年で実施・導入している研修医評価などを紹介したい。

【結果】研修医は安定的に増加していることを確認した。救急車搬入は750台から1200台に増加していた。総合診療科入院数は年間31名から539名に増加した。総合診療科は研修医向けのレクチャーやカンファレンスを導入するなど研修医教育の中心を担っている。診療では従来の入院外来対応や救急車対応のみならず訪問診療を導入するなど患者中心の医療を実践するようになった。JCHO版総合医育成プログラムにも参加している。これらが連動するようになり、当院で実習・見学する医学生も飛躍的な増加が認められた。ついに2019年度より当院で初めて、当院基幹型総合診療後期研修プログラムに1名参加するに至った。

【考察】総合診療科は単に一診療科として入院外来数を増やすだけではなく院内の研修医や救急台数を増やす相乗効果を示していた。これは総合診療科が研修医、多職種、多診療科、また地域をつなぐ架け橋となる可能性を示しているだろう。